

Giuseppe Verdi **LA TRAVIATA**
Opera in three acts performed in Italian Approximate Running Time: 2hrs. 40min. / with one intermission

ヴェルディ 全3幕 **椿姫**
イタリア語上演 / 日本語字幕付
[上演時間: 2時間40分 / 休憩1回含む]



ナタリー・デセイ (ヴィオレッタ)

指揮: ジャンアンドレア・ノセダ

注目の演出家 ローラン・ペリによる、
デセイのための話題の演出!

純愛の心は、どんな女にも宿るはず!
ピュアな心の哀しさが名旋律と共に胸に迫る名作!

華やかな社交界を蝶のように生きていた高級娼婦ヴィオレッタは、純粋な若者の真剣な愛に動かされ、地道でも愛に満ちた生活を送る決心をするが、過去は消せるものではなかった。彼を愛するがゆえに、自堕落な女に戻ったふりをして身を引いたヴィオレッタ。本当の心が若者に通じた時、彼女は「奇跡」を願ったが・・・。

「かつてないヴィオレッタとの出会い」小林伸太郎 (音楽ジャーナリスト、在N.Y.)

「もしかしらこの《椿姫》が、これからの人生で、もう何も怖がらなくてもいいのだ、と思える助けになったかもしれません。」《椿姫》のヒロイン・ヴィオレッタを、昨年7月サンタフェで、そのキャリアで初めて歌ったあとのナタリー・デセイの言葉だ。そこからは、ソプラノ・レパートリーの最高峰とも言われる同役を歌うことの大変さと同時に、大役を演唱し切ったという彼女の充実感が伝わってくる。この時のデセイのヴィオレッタは、幕を追うごとに表現が深まり、それは感動的だった。この成功を支えたのは、デセイが最も信頼するという演出家、ローラン・ペリとのコラボレーションだ。一人の娼婦の悲劇を誠実に語ろうという姿勢で貫かれたペリの演出の中、デセイは《椿姫》が彼女のために書かれたかのように、ヴィオレッタという女性を鮮やかに生きる。一つの愛のために、悩み、苦しみながらも、全身全霊を捧げて駆け抜けるデセイのヴィオレッタ。オペラファンならずとも、必見の舞台と言えるだろう。

指揮: ジャンアンドレア・ノセダ
演出: ローラン・ペリ
サンタフェ・オペラフェスティバル共同制作
Conductor: Gianandrea Noseda
Stage Director: Laurent Pelly

予定される主なキャスト
ヴィオレッタ: ナタリー・デセイ
アルフレード: マシュー・ポレンザーニ
ジェルモン: ローラン・ナウリ
Violetta: Natalie Dessay
Alfredo: Matthew Polenzani
Germont: Laurent Naouri

*キャストは変更になる場合がございます。
最終的な出演者は当日発表となります。

Giacomo Puccini **LA BOHÈME**
Opera in Four scenes performed in Italian Approximate Running Time: 3hrs. / with two intermissions

プッチーニ 全4幕 **ラ・ボエーム**
イタリア語上演 / 日本語字幕付
[上演時間: 3時間 / 休憩2回含む]



バルバラ・フリットリ (ミミ)

プッチーニが初演を行った
本家本元の劇場による迫力の上演。

最期は本当に愛する人と・・・! 青春のきらめきと切なさ最高潮の傑作!
売れない詩人、画家・・・それでもパリの青春を謳歌するボヘミアン達。そこに迷い猫のように現れたお針子のミミと詩人ロドルフォは恋に落ち、貧乏な中にも甘い生活を送るが、ミミは病に冒されていた。恋人を心配する男と迷惑をかけたくない女。お互いを思いやるが故に別れを決意した恋人達だったが、最期の時、ミミは安楽な場所よりも愛する人の腕の中にあることを選んだのだった。

「フリットリの《ラ・ボエーム》への恋文」加藤浩子 (音楽評論家)

指揮: ジャンアンドレア・ノセダ
演出: ジュゼッパ・パトロニ・グリッフィ
Conductor: Gianandrea Noseda
Stage Director: Giuseppe Patroni Griffi

予定される主なキャスト
ミミ: バルバラ・フリットリ
ロドルフォ: マルセロ・アルバレス
ムゼッタ: 森 麻季
マルチェロ: ガブリエーレ・ヴィヴィアーニ
シヨナル: ナターレ・デ・カロリス
Mimi: Barbara Frittoli
Rodolfo: Marcelo Alvarez
Musetta: Maki Mori
Marcello: Gabriele Viviani
Schaunard: Natale De Carolis

*キャストは変更になる場合がございます。
最終的な出演者は当日発表となります。

「私、ボエームを愛している (Io amo Bohème)」
バルバラ・フリットリがそう言うのを聞いたとき、決心した。これは、聴かなければならない。フリットリは言うまでもなく、現代最高のソプラノのひとりである。彼女を最高たらしめている理由のひとつは、自分の声に合った役を選んできた知性と慎重さだ。リリック・ソプラノであるフリットリにとって、プッチーニはハードルが高かった。だから「ボエーム」も、歌ったことはあるもののまだ早いと感じて封印してしまったのだ。愛してやまないオペラだったにもかかわらず。このたび、その封印が解かれる。学生時代からの友人であるノセダの、たつての願いもあって。私たちが楽しみだが、それ以上にフリットリ本人が、ミミを歌うことを楽しみにしているに違いない。プッチーニの魅惑的な旋律が、彼女のしっとりとした情感ゆたかな声でよみがえる瞬間を想像するだけでわくわくする。共演陣も粒ぞろい。相手役のマルセロ・アルバレスは、劇場を喝采で揺るがすことのできる数少ないテノールだ。ロドルフォは、スカラ座をはじめ各地の劇場で歌っている十八番。澄んだ高音と安定度の高いコロラトゥーラで高い評価を受けている森麻季のムゼッタも、大いに楽しみだ。グリッフィ演出の美しい舞台に、旬の歌手たちの競演。そして音楽監督ノセダの、はつらつとした指揮。現代最高峰の「ボエーム」に出会える夏が待ち遠しい。